

実践! ★★★★★ 人間の安全保障

地域住民の 自立を促す支援を

着実な経済成長を遂げる一方、貧富の格差が広がるガーナで、貧しい北部の住民への支援に力を入れるJICA。また、紛争後の復興を進めるシエラレオネでも、人々の自立を助ける取り組みを開始した。

ガ

ーナは今、アフリカで最も経済が好調な国の一つです。2005年の経済成長率は約6%、2015年までに中所得国の仲間入りを目指しています。しかし、地方に足を運んでみると、発展とは無縁、電気や水道などインフラの整備もままならない閑散とした景色が広がっています。都市と地方との間で格差が拡大し、発展が



寄生虫が繁殖する池の水をこすアッパーウェスト州の住民。協力隊員が、安全な水や栄養に関する健康指導を行い、住民の健康に対する意識の向上に努めている

ら取り残されている人々がいるのです。

特に北部3州の貧困率は他州と比べて非常に高く、そのうちアッパーウェスト州では、マラリアや肺炎、栄養失調、下痢がまん延し、5歳未満児の死亡率が全国平均の2倍に上り、基礎的保健医療サービスの向上が急務です。

そうした中、JICAは人間の安全保障の観点から、同州を優先支援地域の一つに位置付け、アッパーウェスト州住民の健康改善プログラム（健康の輪プログラム）を実施。地域の人々に直接届く保健医療サービスの仕組みづくりに貢献しています。具体的には、保健医療従事者の研修や患者搬送システムの改善、医療機関への機材供与などを行うとともに、青年海外協力隊を派遣し健康に対する住民の意識向上を図っています。このプログラムでは、さまざまな事業を行う際に分散しがちな個々の情報を集約し一体的に取り組んでいます。中でも、地域住民と密接にかかわりながら活動し、地域のニーズを把握する村落開発普及員や保健師、看護師などの隊員の存在が欠かせません。今後は隊員の数を増やし、地方で取り残されている、より多くの人々に保健医療サービスを普及していくような支援を続けていく予定です。

また、ガーナだけでなく、紛争終結から5年が経過した隣国シエラレオネへの支援にも力を入れていきます。同国では、ダイヤモンドの利権を巡って1991年から11年間にわたって内

戦が続き、200万人以上の難民や国内避難民が発生するとともに、子どもが誘拐され兵士として従軍させられました。国連の監視の下、01年に停戦合意が成立し、難民の帰還や、除隊兵士の社会復帰などが進められました。

しかし、いまだ内戦の後遺症は根深く、特に地方では道路や水道、発電所、病院など破壊されたインフラがまったく回復していない地域もあります。学校教育も滞ったままです。そこで、人間の安全保障の視点を重視し、人々の自立を図るために実施しているのが、「カンビア県子供・青年支援調査」です。パイロットプロジェクトとして、内戦による被害が最も大きかった地域の一つである北西部のカンビア県内3地域の小中学校33校それぞれに、校長、教員、青年グループ、女性グループなどの代表者からなる「教育とコミュニケーション開発委員会（EDCC）」を立ち上げ、学校の学習環境の改善や、コミュニティの安定と発展のための小規模プロジェクトを実施しています。具体的には、破壊された校舎の整備やトイレ・調理室の建設、スポーツ・文化活動、学校菜園などを、地域住民が協力しながら実践中です。そして、地方教育行政官や各EDCC代表者、JICA調査団からなる各地域の「ゾーン調整委員会」が、各プロジェクトのモニタリング・評価を行った上で必要な支援をしています。

内戦後、国連やNGOなどの支援に依存し受け身の姿勢だった住民は、地域住民の主体性を重視したこの事業を通して、自ら努力する姿勢が見られるようになり、今や自分たちで地域を活性化していこうという意識が着実に芽生えています。これからも人々が自分自身の力で平和を維持し、自立発展していけるよう、人間の安全保障の視点に基づいた支援を続けていきたいと思っています。